

福岡新水巻病院

# HOT LINE

## 福岡新水巻病院開院10周年記念 特別号

“地域と共に歩んだ10年間”すべては患者さま、ご家族さまの安心のために。

- 福岡新水巻病院 院長 藤井 茂 挨拶
- 社会医療法人財団池友会理事長  
蒲池 眞澄 挨拶
- 代表者挨拶
- 福岡新水巻病院10周年の歩み
- 開院10年間と直近3ヶ月間の推移
- カマチグループの紹介

(社会医療法人財団 池友会・一般社団法人 巨樹の会・学校法人 福岡保健学院)



10<sup>th</sup>  
特別号

思いをつなぐ、未来へ広げるメッセージ

## 開院10周年を迎えて

福岡新水巻病院10周年を迎え、深く感動しております。感謝！感謝！！であります。

平成15年(2003年)6月1日、午前8時30分。初めての全体朝礼が開かれました。その日の日勤者が全員揃った朝礼です。みんな緊張の面持ちだったのを覚えています。私も武者ぶるいの中、声を振り絞って鼓舞したものです。9時00分からの開院の予定でしたが、気持ちの先走った？遠賀救急隊から8時35分に最初の救急要請が来ました。地元の期待の大きさとともに、これなら行けるぞという確信にも似た思いが心の底から湧いた瞬間でした。

遡ること1週間、平成15年5月25日(日曜日、仏滅)、開院式およびパーティーが本館1階ロビーで催されました。17名の医師と全職員数280名でのスタートでした。小文字病院、和白病院、新行橋病院経験者は60数名を数え、非常に心強く思ったものです。私のあいさつは、「蒲池会長をはじめ池友会の先輩の皆さんのおかげで、こんな素晴らしい病院(ビル)を建てていただきました。この箱に、人が人を診るといふ大きな使命の元、福岡新水巻病院の職員となった皆の力で、地域に大きな貢献を果たすために、職員ひとりひとりが力を発揮しなければならず、そのための職員教育を徹底的にします。」みたいなことを言ったように覚えています。

MY  
テーマ

すべては“患者さま、ご家族さま”の安心のため  
信頼できる医療を続けてまいります。

福岡新水巻病院 院長

藤井 茂

SHIGERU FUJII

昭和33年3月22日、山口県徳山市(現 周南市)生まれ。

昭和59年 聖マリアンナ医科大学卒。

同年、先輩である岩里先生の薦めで、小文字病院に就職。  
カマチグループ病院の研修医第1号。平成4年小文字病院  
内科部長、平成10年副院長を経て、平成15年福岡新水巻  
病院開院より院長に就任。

現在の医療情勢を考えると、平成19年の周産期センター開設はまさに奇跡的であり、この分野の医療が当院で行われることは大きな誇りであります。

救急医療に関しては地元の期待にきちんと答えるという思いから、断らない救急を第一義としています。しかしベッド数212床に対し、毎月の救急車数は470件!!ほどで入院率55%ですから、ベッド運営は困難を極めております。入院時から退院のお話をせざるを得ず、心苦しい次第ですが、重症患者さんのたらいまわしを回避するために御協力をいただいております。超急性期の危険な状態を切り抜ければ、あとはリハビリをして自宅に帰る準備をしますが、それは近隣のリハビリ病院でお願いしております。

職員教育が第1と言っていますが、いろいろな教育があります。私は開院時より全人教育が必要と言っていました。人が人を診るわけですから、病気だけを診るのではなく、その患者さんの精神的なこと、経済面を含む生活のこと、職場復帰をめざして職業的レベルまで考えなければならないと思います。人が人たる所以は、愛しむこと、尊敬すること、人のことを言うのではなく自ら行動することと考えています。机上の教育ではできないことがたくさんあり、スポーツや遊び、交流会(飲み会)から学ぶことが大事であると考えます。

永年勤続10年を迎える職員が43名います。私も10歳年をとり55歳となりました。各科部長も10歳年をとりました。これからは世代交代も含めた運営が必要です。幸い当院には将来の候補がたくさん育っており、大きな力となってくれるでしょう。それまで若干年をとった我々もますます元気で自分に磨きをかけ、後進の全人的教育を行いたいと思います。福岡新水巻病院が永久に不滅であるために努力したいと思います。





▲ホワイトバード(医療搬送用ヘリコプター)

## 福岡新水巻病院は今…

### 「飛躍する福岡新水巻病院 急性期医療への挑戦」

私は昭和49年に下関で19床のカマチ医院を開院した後、小文字病院、福岡和白病院、新行橋病院を開設し、5番目の病院となる福岡新水巻病院を平成15年6月に開設しました。

当時349床を有していた小文字病院は、時代の変化及び老朽化から手狭となっていました。私は、医療は環境の変化に応じて常に変化していかなければならないと考え、小文字病院を分割する形で200床規模の新しい急性期病院の建築を考えました。

水巻町は北九州市と福岡市の間にあり、ベッドタウン化が進むことや国道3号線が横断していることもあり、現在の場所に福岡新水巻病院として建てることを決めたのです。

開院後は、これまで一貫して取り組んできた救急医療を中心に邁進してきました。その結果、医療法人財団池友会は平成22年4月にさらに公益性の高い社会医療法人として福岡県より認定を受けました。

この10年間で、福岡新水巻病院の救急車の搬入件数は年間5,000台を超え、県内でも指折りの件数を誇り、池友会でもトップです。また医療搬送用ヘリコプター「ホワイトバード」の導入やMRIの増設、平成19年には周産期センター、福岡水巻看護助産学校、みずまき助産院ひだまりの家が次々とオープンし、『周産期医療と教育』を実践し、医療のレベルアップを進めてきました。今では福岡新水巻病院周産期センターは、福岡県内においてなくてはならない存在にまでなりました。

今夏には2台目のCTを増設し、更なる救急医療の充実へステップアップします。

これからも地域が安心できる病院作りを目指していきます。



▲福岡新水巻病院開院記念式典

社会医療法人財団池友会 理事長

# 蒲池 眞澄

M A S U M I K A M A C H I

カマチグループ(社会医療法人財団池友会、一般社団法人巨樹の会、学校法人福岡保健学院)会長。昭和15年4月14日、福岡県八女郡黒木町生まれ。蒲池家は江戸中期から8代続いた医師の家系で、蒲池眞澄で9代目となる。九州大学医学部卒。虎ノ門病院、九州大学大学院医学研究科、下関市立中央病院、福岡大学医学部を経て昭和49年、下関市で救急指定の下関カマチ病院を開院し独立、昭和56年北九州市小倉北区に小文字病院、昭和62年福岡和白病院を開設し院長に、平成24年4月からは理事長に就任。



## 代表者挨拶



副院長・外科主任部長  
矢野 公一

開院当初、私と多賀君の2人で始まった当院外科は、平成15年6月6日に第1例目の手術を行ってから、約3,500例の手術を経験してきました。手術数は年間320例前後でしたが、年ごとに増加し、昨年度は422例と過去最多となりました。また幸いなことに多数の若手外科医師を輩出し、当院研修医課程修了者8名、他施設から3名、計11名が池友会に属する外科医師として巣立ち、現在はそのうち10名が所属しています。

彼らの教育に当たっては、蒲池理事長、藤井院長はじめ多くの方々にご理解とご支援をいただき、関東を中心に修練のため出張させ、消化器外科専門医、外科専門医などを習得して、バランスのとれた優秀な外科医師に育ち始めました。世間では外科医師不足と言われる中、池友会はもちろん日本の外科学に少しでもお役にたてればと、今後も積極的な若手外科医師の確保と養成を使命としつつ、地域の皆様に質の高い外科治療を継続して提供できるように研鑽を続ける覚悟です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



内科・循環器内科主任部長  
車 忠雄

平成15年6月1日の開院から10周年を迎えました。開院以来外来患者数、新規入院数、救急患者数、手術件数の増加を認め(10年間の推移に詳しく載っています)医師数・職員数もそれに伴って増加してきています。最近では中核病院として救急患者数が特に増加してきております。内科疾患としては循環器疾患(虚血性心臓病、不整脈、心不全など)、呼吸器疾患(細菌性肺炎、誤嚥性肺炎、急性呼吸不全など)、消化器疾患(胃・十二指腸腫瘍、ポリープ、悪性腫瘍、肝臓病、膵臓病など)を他科の医師とも相談し患者さんに最も適した治療を行えるよう取り組んでいます。膠原病(自己免疫が関与する病気)や血液病などは産業医科大学の医師と相談し治療を行っています。研修医(卒後2年以内の医師)の教育も継続して行っています。改善すべき点は改善し対処いたしますのでご指導宜しくをお願いいたします。今後とも今まで以上に病院・診療所連携に取り組み地域の期待にこたえられる病院を目指し努力していきます。



周産期センター長  
白川 嘉継

福岡新水巻病院は地域救急医療の中核となるべくして設立され、10周年を迎えました。全力で命を守る医療を行ってきた病院の傍らに、この世に生を受けた命を守るべく、周産期センターが平成19年に併設されました。強い生命力を持ちながら、未熟さ、弱さゆえに消えてゆきそうな命を守る医療の種が、完成した強い肉体を持つ成人を突然の事故や、急変する疾患から護る医療の中に蒔かれたのでした。当院が誇る高度な医療を展開してきたスタッフの方々のおかげで、500g未満で出生した児が退院してゆき、これまでは重度障害児となっていた、重症仮死児が後遺症なく退院してゆきました。蒲池理事長によって始められた、我が国初の休みなき救急医療体制が芽吹き、藤井院長のもとで結実していた背景のもと、いとも簡単に周産期医療は萌芽したのです。一方、懸命に生きようとした生命が消えたときには、家族に幸せな死が訪れるようにと願いながら喪の儀式を行い、目の前から消えた命が、心の中で失われぬように努力を続けてまいりました。幸い、子どもを亡くした家族の多くが、当院で再び出産するという、幸せが訪れました。これから10年はスタッフ皆が同じ気持ちで団結し、命を守る医療をさらに発展させてゆく所存です。



看護部長  
菅 真知子

平成25年6月1日、開院10周年を迎えることが出来大変嬉しく思います。関連病院からの支援をはじめ開院募集でスタートした看護部も平成25年4月には370名を超える大きな組織に成長致しました。

福岡新水巻病院の特徴として、①救急が多い(症例が多く勉強できる)、②大病院の機能に中小企業の温かさ(大病院にはない連携の良さ)、③教育熱心(全ての職員が教育に力を入れている)、④アットホーム(職員は皆家族である)、⑤アフターファイブの充実をかけた病院の知名度アップと併せ専門看護師として自己実現スキルアップを目標に就職希望者も年々増加してきました。

24時間365日救急を断らない!!を使命としている当院は、救急で搬入される患者様もどんどん増加し、平均在院日数の短縮、さらには1ヶ月の新規入院患者数も550名を超えるようになりここ数年のスピードは想像を絶するものがあります。ベッドサイドで頑張っているスタッフには本当に感心致します。

そんな中、医療事故防止、感染防止に努めながらより良い医療看護の提供に努めていますが、今後とも患者様お一人お一人に満足して頂けるよう努力していきたくと思います。

幸いなことに当院は(池友会グループ)教育的サポートに恵まれた環境にあり院内院外はもちろん海外研修もあり質の高い看護が求められる現在さまざまな教育機会があり、10周年を迎え初心に帰って更なる看護の向上に努力していきたくと思います。



医療技術部長・薬局長  
植山 寛

福岡新水巻病院が開院して10周年を迎えることが出来ました。これもひとえに当院を支えて下さったすべての皆様のご協力の賜物と心より御礼申し上げます。

振り返ると、当院が開院するやいなや、救急車がひっきりなしに来て、その対応にかなり大変だったと記憶しています。そこから10年間で医療技術部の放射線科、検査科、薬局、リハビリテーション科、臨床工学科、栄養科の6部門には救急体制の充実、医療の進歩に伴うより高い専門知識の向上、電子カルテやDPCへの対応など数え切れないほどの進歩がありました。また、「手には技術」「頭には知識」「患者様には愛を」を病院理念とし、医療技術部一丸となって力を合わせてきました。

10年は一つの区切りではありますが、まだまだ発展途上の過渡期にすぎません。これからも地域の急性期医療の中核病院として地域の方々の期待に応えられるように、さらに安全で質の高い医療を目指し、専門知識を生かした チーム医療の一員として貢献出来るよう自己研磨し、患者様に満足していただけるよう努力していきます。今後とも今まで以上にご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



地域にとつて、  
優しい病院に  
。。